

令和元年度第5回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和2年3月25日（水） 午後6時30分～午後8時30分

■開催場所：職員会館かもがわ2階 大会議室

■議題：

- (1) 施策2, 3, 7, 9, 10の進捗管理について
- (2) 次期市民参加推進計画の策定について
- (3) 「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について
- (4) 令和元年度第2回市民公募委員サロンの実施結果等について

■報告事項：

- (1) 市民参加に関する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員11名

(池田委員, 内田委員, 兼松委員, 佐々木委員, 篠原委員, 菅谷委員, 杉山委員, 橋本委員, ハッカライネン委員, 壬生委員, 森川委員)

■傍聴者：0名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し、後日、音声配信を実施する。
当日、オンラインにより、乾委員がオブザーバーで参加した。

【議事内容】

1 開 会

2 座長挨拶

<杉山座長>

本日は今年度最後の会議ということで、最後を飾る充実した会になればと思っている。
早速、事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

3 議題

議題（1）施策 2, 3, 7, 9, 10 の進捗管理について

それでは、早速、議題 1「施策 2, 3, 7, 9, 10 の進捗管理について」に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料 1「計画の進捗確認・分析調査について」説明）

<杉山座長>

施策 2, 3, 7, 9, 10 については、他都市の先進事例を参考とするため他都市調査を行ってきた。次期計画にどういう風に盛り込むかは検討が必要だが、重要だと思う点を述べていただければそれを盛り込んでいきたいと考えている。ご質問等あれば発言いただきたい。

先進事例を見ていて、私は、従来にない発想がいいなと思う。「協働」というキーワードはあるが、どういう風に互いのいいところを出しながら新たな仕組みを作っていくか、どうやって過去にないことを、仕組みを作って実施するのかという、その発想が大事だと思う。そうした発想を計画の中にも柔軟に取り組めるとよいなと思う。

<佐々木委員>

確かに、いいアイデアをたくさん紹介いただいたと思う。そうしたアイデアがどうやって生まれてきたのか、誰が考えたのかという点については、どれくらい把握しているのか。

<事務局>

全ての事例を把握しているわけではないが、例えば鎌倉市の「カマコン」は、企業が「面白いことをやっ払いこう」という想いから生まれている。神戸市は、神戸市が課題をオープンにしてスタートアップ企業を応援していくという取組を、海外事例を参考にしつつ組み立てたと聞いている。

<兼松委員>

「神戸らしい」、「横浜らしい」、「鎌倉らしい」など、これらの都市をみてきて、改めて「京都らしさ」とは何だと思われたのだろうかということ、皆さんで話し合えたらと思う。単に他都市がやっていることをまねしても意味がないと思う。京都らしく、既にできていることは何なのか、少し聞いてみたいなと思った。

<事務局>

牧之原市の話で言うと、牧之原市に市民ファシリテーター制度ができたのは町の合併がきっかけとなっている。対話を進めていくべきだという流れの中で、地域の方を市民ファ

シリテーターとして育成し、牧之原市へのプライドも持ってもらうというところにつながってきた。

京都の強みとしては、これまでずっと市民の方が地域で様々な活動しており、100人委員会といった取組も行うなど、対話の土壌があるというところかと思う。そのため、牧之原市のように市民をファシリテーターとして育成するというよりも、逆にそうした対話の能力を持った職員を育てる必要があるということで、職員ファシリテーターの育成に取り組んできているところである。

<菅谷委員>

色んな取組の枠組みを紹介してもらったが、どういう成果が出ているのかということがあればもっと参考になると思う。

地域の取組を他都市の方に紹介すると、「京都だからできるのでしょうか」とよく言われる。京都のコミュニティが持つコンテンツは非常にレベルの高いところにあり、他都市から「目指せ京都」のような感じでみられるところも多くある。他所に行って「京都も捨てたものじゃない」と感じて帰ってくるのがよくある。

他都市の真似をして枠組みだけ作って「やりましたよ」と終わってしまうのはよくない。京都のコンテンツはすごいのだということは、色んな所で感じる。他都市の取組の何を取り入れるのかを見極めることが大事である。

<杉山座長>

菅谷委員の話は、兼松委員の話ともつながる話である。「京都の強みをいかにして生かすか」、ぜひ次の計画に具体的に盛り込んでいくのがいいのではないかと思う。

成果については、「どう評価するのか」ということと、「評価を見据えてどういいところを取っていくか」ということかと思う。計画の中でもそうした点を盛り込めればいいのかと思う。

<ハッカライネン委員>

京都市は国際都市である。ネットで海外とつながって、海外でまちづくりをやっている人たちと京都の人たちが繋がったら、何ができるかなと思う。それも、一つの京都らしさかなと思った。お互いが刺激しあうということがあればよいなと思った。

<杉山座長>

ありがとうございます。今出されたような意見を盛り込みつつ、引き続き議題2について話し合いたいと思う。

議題(2) 次期市民参加推進計画の策定について

<杉山座長>

事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料2「次期市民参加推進計画策定に当たっての考え方(案)」説明)

<杉山座長>

今までの議論がまとめられている。特に「重視する三つの視点」について書かれている。次期計画策定に当たっての基本的な方向性についてはこの間確認してきた内容がまとめられているので問題ないと思うが、表現方法や切り口について、ご意見があれば忌憚なく出していただきたい。

<森川委員>

全体的にはいいかなと思っているが、「課題認識」もしくは「計画の方向性」の中でどう盛り込むのかを考えていただきたい点がある。

それは、公募委員の数は増えたとし、選任する仕組みはあって取り組んでいる部署も多くなっているようだが、市民の声はちゃんと受け止めているのかということ。また、パブコメもやっているが、形だけ、アリバイのためにやっていないか。やらなくてもいいものまで実施していらぬ労力をかけているのではないかというようなことである。昨年度そういった議論があったかと思う。「市民参加のプロセスを作らないといけない」というプレッシャーはかかっているが、それを本当に市民参加につなげるようなものにできているのかという点が気にかかる。もはや、仕組みを整える次の段階に入り始めているのでは、ということだったかと思う。

半分質問だが、京都市役所では各局区等の取組をどのように評価しているのか。「数を成果として挙げろ」というプレッシャーのかけ方をしても今までと変わらない。それぞれの取組の「ここがいい」とか、インセンティブの与え方を変えていかないとクオリティは変わらないのではと思っている。

<杉山座長>

そのあたり、事務局の認識はいかがか。

<事務局>

確かに、制度を整えるのが早かったということもあり、数値的にも進んでいるという点については評価できると思っているが、質の向上についてはこれからの課題だと思っている。数値は上がっているが中身の質はどうかという点、質の向上をどうしていくのかという点は課題であると認識している。

これまで庁内で市民参加の推進のためにしてきたこととしては、各局区の運営方針に市民参加の視点を必ず入れるように周知し、取り組んできた。また、事務事業評価という制度において、その中で市民参加の制度を取り入れているかどうかという評価も行ってきた。そういう評価を行ってきたからこそ成果が増えてきたという側面もある。

実質的に市民と協働し、市民参加の質を上げるという話で言うと、うちの部署が所管するファシリテーターの育成が新たに着手した取組である。各職場に対話や協働することの重要性を学んだ職員を置き、そうした職員がそれぞれの職場で対話し、実質的に市民参加を広げてもらうということで、より庁内に広がっていくことを目指すということがその成果である。

<佐々木委員>

各附属機関等に参加している公募委員の方に、「会議に参加して自身の意見が反映されたかどうか」ということについて、現状、アンケート等で把握してはいないですね。

2年間市民公募委員サロンに参加して公募委員さんからよく聞いたのが「自分が参加している意味が感じられない」ということだった。専門委員が議論を引っ張って行ってしまっただけで発言しにくいといった声が、各附属機関等の事務局に届いていないのではないかと思う。

森川委員が話されたように、「定量性」の評価だと、数値ではいろいろやっていると測れるが、「定性的」な評価、実際にどんなことが行われているかは分からない。

例えば「ファシリテーターを各部署におく」というように、京都市側が「こういうことをしていますよ」と発信するだけでなく、市政に参加している市民の声を聞くという、受け止めることもしっかりしないと、定性的な評価をするのは難しいのではないかと思った。

<兼松委員>

「対話や学び合いの場づくり」が上がっているが、「何を学びあうのか」という点は更に考えたい。また、市民の方の声を聞くのに、全員にアンケートを取るのが難しければ、一部の方、もしくはランダムで取るという方法もあるだろう。さらに、市職員の皆さんのリソースをどう割くかという話もあると思う。

「対等に学び合う」という話は、勉強会をする、という話もあるかと思うが、市民参加について学びあう、など、そういった場が増えていけばよいのかとは思いますが、一方で市職員がリソースを割けるかという話でもある。

市民公募委員の満足度を高めるのが目標ではない。最終的には良い審議会になり、市民の声が反映された良い政策が出ていくのを大義としたときに、そこに「職員はこれぐらい時間を割くべきだ」という大きな方針があったりすると、動きやすくなるのではないかと思った。

<篠原委員>

6 ページの重視する視点の一つに挙げられている「対話を通じた学び合い、信頼関係の構築」について、「信頼関係の構築」は「対話」より先の方がいいのかなと思った。

「専門委員の人の発言が上から目線のように聞こえる」という話は、公募委員の人も先入観を持って腰が引けている、ということかもしれない。また、専門委員の人も普段からそうした言い方だけで、上からの物言いに聞こえてしまう、ということかもしれない。そうしたことはお互いに相手のことを分かっていたら起こらない事でもあるのかなと思う。

審議会はその性質上、市職員がファシリテーターとして入るのは構造上難しいとのことなので、現実的には、審議会の進め方自体についてこのフォーラムで型を作るというようなことをしない限りは、市民公募委員の方がなかなか発言できない雰囲気があるというのは変わらない気がする。

今回の新型コロナウイルスのように、専門家の人でも立ち位置で色々と意見が違って、市民も色々と協力しなければならないことがどんどん起こってくる場合、どちらか一方の発言のみが正しいと言えない場合に、対話をしていくのはすごく重要である。

意見の相違がある人たちとどうやって合意を形成していくのかということは何となく難しいことである。会議の場自体も、そういうことに慣れていかないと、どうしようもなくなってしまうのではないかと思うので、そういう風なことについて来年度のフォーラム会議で考えるのもありかなと思う。

<杉山座長>

先ほど文言のことについて発言されたが、信頼関係を構築しないと対話も進まないのでは、ということも含まれるということか。

<篠原委員>

そうである。

<杉山座長>

大変貴重な御意見である。

こうしたプロセスは、行ったからといって信頼関係ができるわけではないし、成果が出るわけでもない。しかし、このプロセス自体が大事である。

成果を評価する仕組みや、成果の評価の在り方についても次期計画に盛り込めたらいいかなと思う。今までのように数字だけを追うのではなく、質、先進的な取組をどう評価するかというのは難しいことではあるが、成果を実際に挙げているような取組をピックアップするとか、具体的に「こういうところが良かったね」と共有するとか、そういう仕組みが大事であるとともに、そういうことを取り上げたり、評価をすることも大事である。数値的な評価とプロセス的な評価をセットでやることで、実質的成果につなげていくとい

うことになるのではないかと思った。

<森川委員>

この間の取組で良いなと思っていることもある。私の関わっている地域景観づくり協議会の12地区のネットワークと景観政策課が、一緒になって制度をどう改善していくかということをやってきた。この半年間、各地域のヒアリングをしたり、会議で話し合ったりしながらやってきており、うまくいけば今度の予算要求で制度化につなげていけそうである。

私の知る限り、この11年間ほどの中で、今が一番景観政策課と地域の距離が近いと思っている。なぜこういう風な関係になってこれたのかについては色々理由があると思う。三つの重視する視点の一つ「協働による課題解決の先進的な取組の実践」にあるような「先進的な取組」という名称には合わないくらいベタな取組ではあり、評価軸をどうするかという点はあるが、ケーススタディという形で注目してみても良いかもしれないと思った。

<兼松委員>

それは担当者の人柄、属人的なものではないのだろうか？

<森川委員>

人が代わると変わる部分もあるが、課全体の雰囲気が良いと思う。私はそういう評価をしているが、私だけでなくいくつかの地域の方もそういう風に言っている。

<杉山座長>

つまり、信頼関係が築けているということですね。

<乾委員> ※オブザーバー参加

色々な話を聴いていて、2, 3思ったことを述べさせていただく。

市民参加推進フォーラムとして、色々な市民活動を俯瞰的な立場で検証するというのは良いのではないかと思った。全部は無理だが、例えば、今回の新型コロナウイルスの問題の時にリスクコミュニケーションがちゃんとできていたか、とか。あるテーマを決めて、うまくコミュニケーションができていたかを検証していくのは良いのかなと思った。また、委員会運営などがうまくいっているのはなぜか等、うまくいくいかないは別として、ある視点をもっていくつか並べてみて検証するのは良いのかなと思った。

基本は間接民主主義だが、いかに直接民主主義的なことを取り入れてバランスをとるのが、市民参加で大事なことなのかなと思った。市民の声を取り入れながら、市民に情報提供しながら、うまく市民が動けるようになっていくのかということいくつか検証していくということを今後やっていくのもいいのかなと思った。

<ハッカライネン委員>

一つ思ったのは、公募委員の方が自分の意見を言う勇気がなかったら、発言できないのではないかということである。これは、教育の問題もあると思う。

三つの重視する視点のどれに当てはまるかは分からないが、「どのような偉い人が来ても自分の意見を言える」という教育が大事な部分はある。私の育ちが関係しているのだと思うが、私は、分からないことがあっても、日本語がうまく言えなくても、自分の意見が言える。どこかで、「自分の意見は大切です」、「伝えることによって物事は良くなります」、「あなたが言わなかったら困ります」、そういうことを伝えられる教育を受けられたらよいのと思う。

<杉山座長>

あとの議題でも出てくるが、市民公募委員サロンでそういったことを学びあってもいいのかもしれない。

<内田副座長>

今のハッカライネン委員の発言とも関連するし、三つの重視する視点「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」という話にもつながるかと思うが、今の私たちにとって「市民参加推進」というのは、ある程度大人になってから、「大学生だからやりましょう」というように、成長の過程で突然出てくるもののような形になっているように思う。市民参加の枠組みだけで話せることでもないし、自治体レベルの話でもないのかもしれないが、もっと公教育の中に、「自分たちはこういう権利を持っているのだ」ということを伝えていける時間を持てていけるといいなと思う。

また、「京都らしさ」というところにも関わるのかと思うが、社会が少し難しい状況になっていたり、まちが力を無くしていくようなとき、過去の京都は、「教育」というところに取り組んできたという歴史がある。京都市の中だけでも、市民参加という枠組みの中で、何か公教育の中で市民参加について考える時間を持ていけるような仕組みを、これから何年かかけて作っていくというのも面白いのではないかと思った。

大学生になってからだと、大学に行かない選択をした層は学ぶ機会を失ってしまっている。もっと早い時期から、「市民参加は自分たちが社会に関わっていく基本的なもの」として時間をもって知っていけるような仕組みを何か作っていただけたらなと思った。枠組みを広げるような発想もできたらいいのかなと思った。

<壬生副座長>

「先進的な取組」とあるが、これは本当に先進的なものである必要があるのかな、と思っている。事務局に確認したいが、この「先進的」は何を指しているのだろうか。

<事務局>

新しいということ。また、イノベーション、これまで考えてこなかったような解決策が生まれるか、そういったことと捉えている。

価値観の違う、視座の違う様々な人が集まるからこそ気付けなかった解決策が生まれるというようなことが新しい、先進的、挑戦的なことと捉え、そういった意味合いで使用している。

<壬生副座長>

そうであれば、「挑戦的」、「チャレンジング」という文言の方が私にはしっくりくる。「先進的」といってしまうと、これまでやってきたようなこととは違う全く新しいことをしなければならないというような思い込みで気軽なチャレンジがやりにくくならないかなという気がした。

<兼松委員>

先ほど森川委員が発言された「地道なことが意外と最先端な気がする」ということともつながる話である。本当に気持ちを込めて本気でやってきたかという、そういった着実さも、先進的といえは先進的なのかなと思った。

<壬生副座長>

言葉は人によって捉え方が違う。できるだけ誤解のないように、伝えたいことを直接的な形で表せることができればと思う。

<兼松委員>

「市民参加の裾野の拡大」について。例えば今回の市長選挙で、これまで全く政治に関心のなかった方が非常に熱心にとある候補者の草の根活動をされていて、その方が応援していた候補者が落選すると、がっかりしてしまっただけでむしろ政治から離れる…という光景を見た。

そういったことは往々にしてあることで、投票後の癒しというのは非常に大事だと思った。せっかく関心を持って、一つの市への関わり方として政治というところに関わっても、自分が応援していた方が落選してしまうとやる気を失ってしまっただけで、むしろ政治から離れてしまう、というパターンもあるような気がしている。市政参加よりも政治参加の方が投票という行為がある分市民には身近なように思われ、市民のリアルはそういうところにあるのではと思った。

<事務局>

市政参加と政治参加の関係性という点についてだが、おそらく政治参加をされる方は、

ドラスティックな変化、大きな変化を求められているのではと考えられる。

政治参加で自分の望みが果たせなかった時に、「私の半径何mかを変えるために市政参加する」となる方もいたり、逆に、市政参加をしている人が、活動していることで限界を感じた時に「もっと大きな視点で動かしたい」ということで政治参加されたりする場合もあるのだと思う。

市政参加と政治参加の関係性、「市民参加」はどちらも考えていかなければいけないと思うので、これからまた議論していければと思っている。

<篠原委員>

「先進的な取組」とはまた違うことかもしれないが、京都市が取り組んだ「100人委員会」は当時、すごく先進的な取組だった。京都市では12年前に始まったが、今色んな地域で似たような取組が行われている。当初から関わった私のような人間にとってははずいぶん昔の話だが、私が関わっていて、現在そうした取組に取り組んででいる地域に行くと、やっていること自体は私にとってはやはり全然新しいことではないが、その地域で関わっている方にとっては新しい取組である。

「市民参加」について議論しているこうしたフォーラムのような場にいると「100人委員会」の取組は当たり前で新しくもなんともないものだが、京都市民にとってもまだ知らない人がいるのが現実である。一つのことをやり続ける、やり続けることで裾野を広げるのは大事なと思う。

やっている取組が当たり前のようにになると、やる側は新しいことをやりたくなくなってしまうものだが、そういうものも大事にできたらと思った。三つの重視する視点の2「次世代につながる市民参加の裾野の拡大」や3「協働による課題解決の先進的な取組の実践」につながる話かと思った。

<佐々木委員>

小さなことだが、語句の表記について。「取り組み」と「取組」、「仕組み」など、送り仮名を統一していただければと思った。

<事務局>

京都市内部で文書作成の際の用語使用方法が決まっており、名詞の取組は「取組」、動詞の取組は「取り組み」とするようになっている。統一的に見えないかもしれないがそういう視点で作成しているので御理解いただければと思う。

<佐々木委員>

思っている以上に文章校正に気を遣われているのですね。

<橋本委員>

表現のことで言うと、私も、この文書に限らず行政文書はとてもカタカナ語が多いという印象を持った。上滑りな感じがして、頭に入ってこないような気がする。比較的英語を勉強してきた高齢のうちの母にも聞いてみたが、よく分からないとのことだった。市民に向けて何かを書くのであれば、こういう言葉遣いでいいのかなとは思う。

<篠原委員>

私もファシリテーションをする際、高齢の方がいる時には極力日本語で話すようにしているが、一方で、新しい概念だったり、今までなかったようなものについてはわざと横文字を使うということを聞いたことがあり、なるほどと思って、意識して使ったりしている。事務局も、そのあたり何か考えて使っておられるのだろうなとは思う。

<橋本委員>

例えば…具体的な例は思いつかないが、「～という〇〇」というように、日本語で最初に説明があると、〇〇のカタカナが無くても実は文章の意味が通じる。そうした書き方もよいかと思う。確かこの文書の中にもあったと思う。

<事務局>

本日欠席の森実委員からも、「カタカナ用語が多いので分かりにくいのではないか」というご指摘をいただいている。

今の市民参加推進計画でも、あえてカタカナを使っている場合もある。とはいえ分かりにくいところもあるので、注釈を用いたりするなど、皆さんにとって分かりやすくなるような工夫は引き続き検討していきたい。

<池田委員>

P5「市民参加のハードルを下げる」についてだが、自分もこのフォーラムに入ったきっかけは、学生団体の活動をしていた時に知り合った市職員の方からお声がけいただいたことである。同じ学生団体の子たちや、同じ学部でこういった会議に参加している子も、もともとまちづくり活動に興味があって入っている子が周りには多い。

ハードルを下げて興味がない子は市民参加しないのではないかとと思っている。「興味を持たれるようなきっかけづくり」というのは難しいと思うが、どうやって作っていくのか、ということについてはこれからもっと考えていかないといけないのではと思った。

<ハッカライネン委員>

アメリカの大学では、入試の際に、ボランティア活動に参加したかどうかの評価の対象になる。市民参加の経験のあることが、面接の時とかに有利になるとか、社会人になった

人についても、キャリアにとってプラスになるというような仕組みがあれば、もっと参加するのかなと思った。京都市ができるかどうかは分からないが、あったらいいなと思った。

<杉山座長>

教育という中で浸透させていく、社会全体にそういうことが行き渡るなど、そういう風になっていけばよいのかなと思う。全体として関心がより上がるような、市民参加に対する意識がもう少し広がっていけばよいのかなと思う。

色々な意見をいただいたが、どのように反映させるかは事務局にお任せして、次の議題にうつりたいと思う。

議題(3)「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について

<杉山座長>

それでは、議題3「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況についてに移りたい。事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料3「計画「第5章 計画を着実に進めるための推進体制」進捗状況」説明)

<杉山座長>

ご意見等はあるだろうか。

信頼関係を作るためには、双方が理解して伝え合う、聞くということが非常に重要である。そういう意味で研修は非常に有効であり、研修受講生が増えてそういう理念を理解した職員が増えるということは非常にいいことだと感じた。

<佐々木委員>

信頼関係の構築ということであると、こうして市職員の皆さんが色々と頑張っているということ、市民がもっと知っていける仕組みができないかなと思う。市職員の頑張りを知って、市民が職員をより信頼していけるようになると、良い市政参加につながると思う。こんなに頑張っているということを知らない人はすごく沢山いると思う。

<杉山座長>

そのとおりですね。

チャレンジングな事業を組み立てるという時に、それをどうやって盛り上げていくのか、組み立てていくのかという点についても、御意見があれば伺いたい。

<兼松委員>

仕方がないことかと思うが、資料の各年度の取組内容について、コピー&ペーストの文章が多くなってしまっている。実際にどうだったのかという、実態をもっと知りたい。意味があるから継続して実施していると思うので、「事業を実施した結果、現在こういう形になっている」ということがもう少し知れたらと思った。

市民協働ファシリテーター育成の取組がこの間の特徴的な取組なのだと思うが、この取組への参加の倍率はどの程度なのか。今 3 年目の取組だが、職員が、ファシリテーションに係ることだけでなく、自身の仕事の進め方においても身になっているというような事例はあったりするのか。

<事務局>

市民協働ファシリテーター養成研修は、5 日間の研修期間で受講生が 4 つの組に分かれ、市民意見を聴くワークショップの内容を企画するという内容になっている。進行上適切な人数が 30 名程度ということで、人数を調整して実施している。

昨年度と今年度のワークショップの実績で言うと、今年度ファシリテーターとして派遣したのは延べ 120 名だが、昨年度は延べ 59 名であり、昨年度に比べて派遣人数は倍増している。実践の場が増えているという状況だと認識している。

派遣は他所属の業務に携わる。派遣されるファシリテーターは違う仕事を経験でき、いい経験になっている。一方で、派遣依頼元もファシリテーターと仕事を共にすることで、市民参加ということや協働についてなどを知ってもらったりという状況がある。

<兼松委員>

「京都市職員なのだからこの研修は受けといた方がいいな」という研修になっていけばいいのだろうなと思った。

<事務局>

一つの経験談ではあるが、私自身、この研修の第 1 期目の受講生である。ファシリテーターに任命されて以降、派遣募集がかかるたびに手を挙げていたら、今この部署で仕事をしているということもある。

<壬生副座長>

やり方を学んだり職員が能力を向上させるための骨格は充実しているということがよく分かった。チャレンジした人を評価して、より活躍できる場を提供できるといったことが、全庁的に広がっていけば協働も進んでいくのではないかと思う。

どこまで計画に書けるかは悩ましいところではあるが、そういう風土を作っていっていただけたらよい。

<森川委員>

行政側の体制だけを議論することになってしまうのは仕方のないことかとは思いますが。

計画を進めるのには、やはり、市民側も成熟していかなければならないという気がしている。行政側も実際に市民と接することで成長することはいっぱいあるのではないかな。

私が付き合っている地域の人の中には、職員が地域に出ていくと、「見どころがある若手職員は地域が育ててやる」というような気概を持っている人もいます。職員の研修にも住民を巻き込むというものを増やしていったらどうかなと思った。市民側にも行政に協力的な方はいます。

<事務局>

市民の方と行政が一緒の場で学ぶことの重要性は実感として感じている。例えば、「“みんなごと”のまちづくり推進事業」で公開講座というものを開いているが、平日夜に開催する中で、市民に加えて、行政職員も一市民として参加している。我々も仕事で参加しているが、行政だけで受ける研修とは違い、市民の方と一緒に座ることで、新たに気づきを得られる大切さを感じている。

<杉山座長>

推進体制については来年度以降も引き続き検証しながら進めていくということなので、建設的な意見が出されればどんどん取り組んでいただくという方向になるかと思う。またアイデアをお聞かせいただきたい。

議題（4）令和元年度第2回市民公募委員サロンの実施結果等について

<事務局>

（資料4「令和元年度第2回市民公募委員サロンだより」、参考資料3「令和2年度スケジュール（案）」説明）

<杉山座長>

公募委員サロンについてのご感想、「こうしたらよいのではないかな」というご意見があれば発言いただきたい。

時期が早めということはいいと思う。

<兼松委員>

確かに、毎年「もっと早くして欲しい」と言われていたので、時期が早くなることで「これから」という話が出るのかなという意味では楽しみである。

4月から市民公募委員に任命される方に対しては、就任した時点でサロンの案内が届く、という形でできたらとも思う。内容はまだ決まっていないが。

<ハッカライネン委員>

ワークショップ的な集まりがすごく多い。公募委員の方の「意見がなかなか言えない」という意見にテーマを絞って、「意見が言えるようになるにはこうしたらいいよ」とか、「サロンの場で一つの審議会の運営の仕方を練習するよ」とか、すぐに役に立つものが内容に入っていたらいいかもしれないと思った。

<杉山座長>

すぐには実現できないかもしれないが、発言しておくとお実現するかもしれない。来年度のサロンの企画運営について、立候補、推薦があれば伺いたい。

<篠原委員>

書き方が非常に難しいかと思うが、「市民参加推進フォーラムを傍聴に来ませんか」というようなことを市民公募委員の方にサロンの日程案内と一緒にご案内するのはどうか。

審議会にも、こういう形でやれそうなものと、目的が違うのでどうやってもこのような形では運営できないものがあると思う。後者の審議会委員に見に来てもらっても仕方がないと思うが、前者の場合であれば、見に来てもらうことで「どうやったらこういう雰囲気になるのだろうか」とサロン等で考えてもらいやすかったり、「どうやったら発言できるのだろうか」ということについて模擬審議会みたいなことをやってみたりするのは面白いかなと思った。

<兼松委員>

サロンで勉強会をやるとしたらどういうものがあるのかなと思った。

来年度は1回だけするというイメージだろうか。6月にやった後、年度末にもう1回やっただろうかと聞いて、振り返りをした方がよいのではという気がしている。

運営についても、やっても構わない。

<杉山座長>

そうですね。成果が聞こえてくるといいですね。

<事務局>

来年度は計画策定時期ということで一旦全体的なスケジュールを組んだが、来年度の1回目の会議でサロンの開催回数についてもまた検討いただければと思う。

<兼松委員>

実際にやる時間がないなら、メールインタビューとかでもいいと思う。

<ハッカライネン委員>

すぐに見えない成果もある。例えば、私が何度も投票した人は何度も落選したが、今は大臣になっているということもある。意見はすぐに反映されないかもしれないけど、それでも言うことが大切である。「種をまく」ことがすごく大切だから、是非市から公募委員の方に伝えてあげてほしい。

<兼松委員>

議事録は全ての審議会のもので残っているのだったか？

<杉山座長>

そうである。

<兼松委員>

意見の反映についてはイメージがわくように「この計画書のこの部分はこの市民委員からの声でできました」という例を3つくらい調べておいて、「こんな影響力があるよ」と伝えてあげたいなと思った。

<事務局>

調べてみる。

4 報告事項

報告事項（1）

<事務局>

（資料5「市民参加に係る新しい事業や取組」報告）

（質問、意見等なし）

<杉山座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

今回の会議が今年度最後の会議になる。私もこの会議をもって卒業となる。また、池田委員、佐々木委員、ハッカライネン委員も今回で退任となる。最後に一言ずつご挨拶をいただきたい。

<佐々木委員>

2年間あっという間だったと感じる。このフォーラムに参加したことで知ったことや新しく感じるようになったものの見方など、すごく沢山のことを学ばせていただいた。ここで

学んだことを今後の色々な事に活かしていきたいと思うし、次年度に策定される次期計画も非常に楽しみにしている。ありがとうございました。

<ハッカライネン委員>

以前は外国籍市民施策懇談会に参加しており、外国人の方ばかりの場だったので、このフォーラムはどういった場なのかわからなくて不安だったが、私にとってとても話しやすい審議会だった。職員の方が話しやすく、市政参加の入り口としてとても良かった。意見が言えたことがすごく嬉しかった。「京都市は私の意見を聞いてくれた」ということを実感できた。他の外国人にも伝えたいと思っている。ありがとうございました。

<池田委員>

2年間ありがとうございました。活動している学生団体ではリーダーとして自分が発言してみんなを引っ張っていかねばならない立場だったが、ここに来ると、自分の情報不足、知識不足で発言できず落ち込んだりもした。しかし、皆さんの目の付け所や会議の進め方など、すごく刺激を受け、毎回有意義で価値のある時間だった。社会人になる前に参加できてよかった。皆さんのような格好いい社会人になれるように頑張りたい。

<杉山座長>

素晴らしい委員の皆さんと行政職員の方に支えられたことをまず感謝したい。ありがとうございました。非常にいい意見を聞かせていただき私自身も学びの場になった。これから計画を策定していくことになるが、今も新型コロナウイルスの関係で世間は大騒ぎになっているように、近未来でさえ見通すのは難しい時代になっていると感じる。今回のように、不測の事態はいつ起きてもおかしくない。そうした時に、市民と行政が協働すること、市民が行政に参加することによって乗り越えていってほしいなと強く感じた。そういう社会になることを願って、最後の挨拶とさせていただく。どうもありがとうございました。

5 新座長選出・副座長指名

<事務局>

杉山座長，ありがとうございました。

ご案内いただいたとおり，今年度の会議は本日が最後である。来年度の次期計画策定に向けて，次回会議開催までの間にも継続して議論を進めていく必要があるため，本日最後に，座長の選出を行いたい。

「京都市市民参加推進条例」の施行規則第9条第2項に基づき，「座長は委員の互選」で行うことになっているが，立候補，推薦などはないだろうか。

<兼松委員>

杉山座長，お疲れ様でした。

私も長い期間関わらせていただいているが、来年度は次期計画策定も控えており重要な年だと認識している。副座長のどちらかと思うが、壬生副座長は既に座長の経験がおありであり、内田副座長にお願いできたらと思うが、いかがでしょうか。

(委員から異議なし。承認の拍手)

<内田委員>

ご推薦いただき、また、ご承認いただきありがとうございます。杉山座長のようにいい場の持ち方ができるよう私も頑張っていきたいと思うので、引き続き委員としてご一緒にいただける皆様、よろしく願いいたします。今回で退任される委員の皆様、2年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

<事務局>

皆様に御承認いただいたので、内田委員、よろしく願いいたします。

それでは続いて副座長の選出に移りたい。先ほどと同じ参考資料4に、「副座長は委員のうちから座長が指名する」こととなっているので、内田座長、御指名よろしく願いします。

<内田委員>

副座長は2人の方をお願いすることになる。

まずは、委員を長年務めてこられこれまでの議論もよくご存じの壬生委員をお願いしたい。

もうお一人は、この間一緒に議論を進めてきてNPO等の活動を通じて広い視野でご意見を頂いてきた森川委員にお願いできればと思う。

どうぞよろしく願いいたします。

<事務局>

それでは、内田座長、壬生副座長、森川副座長から一言ずついただけますでしょうか。

<内田座長>

先ほどお話しさせていただいたので早速副座長に引き継ぎたいと思う。

<壬生副座長>

私は次で6年目になる。現行計画の策定時から関わらせていただき、どのように進められていくのかというのを見させていただき、来年度の次期計画の策定にも関わられて終われるということでよい機会を頂けたと思っている。次の計画もよいものにするため頑張りたい。

<森川副座長>

自分の仕事人生を振り返ると、女性のボスの下でパフォーマンスが上がっている。内田さんに引っ張ってもらって役目を全うしたいと思うのでよろしくお願いします。

6 閉会

<事務局>

杉山委員には6年間、佐々木委員、ハッカライネン委員、池田委員については2年間、市民公募委員としてご活躍いただき、本当にありがとうございました。

本日も闊達な御意見，ありがとうございました。

市民参加の取組をどう実りあるものにしていくかということで、色々ご意見ご指摘いただいた。来年度新体制で次期計画策定に向けて議論を深めていただく。引き続き、様々なご意見ご指摘いただきますようお願いいたします。

今回で退任される委員の皆様についても、引き続き京都市の市民参加に応援いただきますようよろしくお願いいたします。

以上